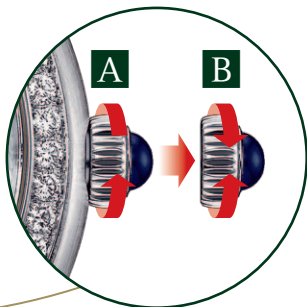


INSTRUCTIONS FOR USE
MODE D'EMPLOI

JULES
AUDEMARS
TOURBILLON

CALIBRE 2906
HAND-WOUND

AUDEMARS PIGUET
Le Brassus



日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています。
読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス
«日本語»をクリックしてください。

保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記されています。



イントロダクション 103 ページ

- オーデマ ピゲのマニュファクチュール

時計について 107 ページ

- トゥールビヨン

この時計について 108 ページ

- ムーブメント
- ムーブメントの仕様
- 特徴

機能の使い方 110 ページ

- 時計の表示と機能
- 時刻合わせ
- ムーブメントの巻き上げ



オーデマ ピゲ マニファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約 50 km 北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は 18 世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビエと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740 年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の 1881 年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。





偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール・ルイ・オーデマとエドワール・オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2人の決意、想像力、そして規律の正しさは、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーヴに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して、新たな取り引き関係を広げます。オーデマ・ピゲのマニファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォ

ール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニファクチュールは、「伝統と革新」を追及しつつ、ハイエンドウオッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。



国際的な成功を収めたオーデマ・ピゲは、1972年にステンレススチールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウォッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤルオークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテイストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション「トラディションオブエクセレンス」を発表します。オーデマ・ピゲはこのシリーズの一環として、オーバルケースデザインのミレネリーのトラディションオブエクセレンスNo.5を発表しました。この時計には、パワーリザーブインジケーター機能、デットビートセコンド機能、垂直に配された永久カレンダーが備わっており、さらには潤滑油を必要とせず、革命的な高い効率で機能する新脱進機システムを搭載することにより、伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

トゥールビヨン

18世紀の後半から、最も卓越した時計製作者たちが時間測定の正確さを高めることに身を捧げてきました。克服すべき大きな問題は、どんな姿勢でも時計が同じように調節されるようにしようとするのでした。地球の重力の関係で、垂直に配置された調節パーツ（テンプ、ひげぜんまい）は、非常にわずかな平衡差にも悪影響を受けてしまい、時計の歩度にずれが生じてしまいます。

1801年、時計製作者アブラハム・ルイ・ブレゲは、どんな姿勢にあっても、歩度のずれを平衡化するトゥールビヨンをういた調節システムを考案しました。機能の原理は、現在まで全体的には同じものです。つまり、脱進機のパーツ（歯車、アンクル、テンプ）はムーブメントに固定されておらず、可動ケーシングによって支えられています。このケーシングは脱進機パーツによって1分ごとに一回転するため、部品全体が常に姿勢を変えられるようになっています。こうして、重力の影響による歩度のずれを補うことができるのです。

185年後の1986年、オーデマ ピゲは、自動巻機械ムーブメントを用いた極薄腕時計シリーズにおいて初めてこのシステムを組み入れることに成功しました。オーデマ ピゲは今日、25のトゥールビヨン搭載ムーブメントを有し、このコンプリカシオンのあらゆる秘密を自在に操る、世界でも有数のマニュファクチュールとなっています。



基本ムーブメント

キャリバー 2906

ブリッジ側



ダイヤル側



ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 6.17 mm

ムーブメントの直径: 30.00 mm

振動数: 21,600 振動/時 (3 Hz)

石数: 19

パワーリザーブ (ミニマム) : 約72時間

手巻き式

ジャイロマックステンプ

ブレゲヒゲゼンマイ

可動ヒゲ持ち受け

部品数: 189

特徴

より正確なクロメトリーのための高回転バルル

特許保持の漸次後退バルルクリケ

手作業で仕上げを施したブリッジとメインプレート

手作業で仕上げを施したカットパーツ (ポリッシュ仕上げのアングル、表にライン ドローイング、裏にスクランブル ライン)

腕時計の表示機能

(図を参照)

- ① 時針
- ② 分針

この時計は2つのポジションを有するリューズを備えています。

- A 位置 手巻き
- B 位置 時間合わせ





時刻合わせ

リューズをポジション **B** に引き出します。時刻合わせをする時はリューズを前後に回すことができます。時間調整時には設定希望時刻より5分進めてから希望時刻に戻すことをお勧めします。歯車かみあいが正確になり精度がより高くなります。

ムーブメントの巻き上げ

この時計は手巻き式ムーブメントを備えています。

毎日同じ時刻に時計を完全に巻き上げることをお勧めします（リューズは位置 **A** で）。最後まで巻き上がったならそれ以上無理に巻かないよう、ご注意ください。

